

平成 29 年度 資格スクール大栄

## 第 23 回建設業経理士試験 模範解答

## 2 級

## 〔第 1 問〕

仕訳 記号 (A～Y) も必ず記入のこと

No.	借 方			貸 方		
	記号	勘 定 科 目	金 額	記号	勘 定 科 目	金 額
(例)	B	当 座 預 金	100,000	A	現 金	100,000
(1)	M	貸 倒 引 当 金	240,000	D	完成工事未収入金	480,000
	U	貸 倒 損 失	240,000			
(2)	L	未 成 工 事 受 入 金	1,344,000	Q	完 成 工 事 高	5,112,000
	D	完成工事未収入金	3,768,000			
	R	完 成 工 事 原 価	4,320,000	H	未 成 工 事 支 出 金	4,320,000
(3)	J	仮 受 消 費 税	281,000	C	仮 払 消 費 税	265,000
				N	未 払 消 費 税	16,000
(4)	Y	社 債 発 行 費	300,000	B	当 座 預 金	300,000
	T	社 債 発 行 費 償 却	100,000	Y	社 債 発 行 費	100,000
(5)	G	建 物	375,000	W	営 業 外 支 払 手 形	485,600
	S	修 繕 費	110,600			

仕訳 1 組につき 4 点 合計 20 点  
(配点は、当学院の予想です)

## 〔第 2 問〕

(1) ￥  30,000(2) ￥  3,677,500(3) ￥  7,500,000(4) ￥  92,000

○各 3 点 合計 12 点  
(配点は、当学院の予想です)

## 〔第 3 問〕

問 1

¥  ○

問 2

¥  ○

問 3

¥  記号 (A または B)  ◎

○各 4 点×2 8 点

◎両方正解で 6 点

合計 14 点

(配点は、当学院の予想です)

## 〔第 4 問〕

問 1

記号 (A～E)

1	2	3	4
E	A	B	C

各 2 点 合計 8 点

(配点は、当学院の予想です)

問 2

## 部門費振替表

(単位：円)

摘 要	合 計	第 1 工事部	第 2 工事部	第 3 工事部	機械部門	車両部門	材料管理部門
部 門 費 合 計	3,740,000	1,528,000	1,185,000	845,000	105,000	32,000	45,000
機 械 部 門 費	105,000	47,250	34,650	23,100			
車 両 部 門 費	32,000	16,000	12,160	3,840			
材料管理部門費	45,000	18,000	14,400	12,600			
合 計	3,740,000	1,609,250	1,246,210	884,540			

 1 つにつき 4 点 合計 16 点  
 (配点は、当学院の予想です)

## 〔第 5 問〕

## 精 算 表

(単位：円)

勘 定 科 目	残 高 試 算 表		整 理 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	7,500						7,500	
当 座 預 金	87,000		10,000	2,000			95,000	
受 取 手 形	375,000						375,000	
完成工事未収入金	745,000						745,000	
貸 倒 引 当 金		27,100	4,700					22,400
未成工事支出金	952,000		200 7,500	600 500 2,000			956,600	
材 料 貯 蔵 品	45,000						45,000	
仮 払 金	105,000			12,000 93,000				
機 械 装 置	166,000		15,000				181,000	
機械装置減価償却累計額		104,000		200				104,200
備 品	64,000						64,000	
備品減価償却累計額		28,000		9,000				37,000
建 設 仮 勘 定	25,000			15,000			10,000	
支 払 手 形		352,400						352,400
工 事 未 払 金		296,600		7,500				304,100
借 入 金		645,800						645,800
未成工事受入金		425,000		10,000				435,000
完成工事補償引当金		3,400	500					2,900
退職給付引当金		215,000	600	7,900				222,300
資 本 金		150,000						150,000
繰越利益剰余金		45,000						45,000
完 成 工 事 高		2,900,000				2,900,000		
完 成 工 事 原 価	2,328,000		2,000		2,330,000			
販売費及び一般管理費	281,000		1,000 9,000 7,900		298,900			
受取利息配当金		3,100				3,100		
支 払 利 息	14,900				14,900			
	5,195,400	5,195,400						
前 払 費 用			11,000				11,000	
通 信 費			2,000		2,000			
貸倒引当金戻入額				4,700		4,700		
未 払 法 人 税 等				11,800				11,800
法人税、住民税及び事業税			104,800		104,800			
			176,200	176,200	2,750,600	2,907,800	2,490,100	2,332,900
当期 (純利益)					157,200			157,200
					2,907,800	2,907,800	2,490,100	2,490,100

1 つにつき 3 点 合計 30 点

## 《2 級解説》

## 〔第 1 問〕

- (1) 前期発生完成工事未収入金が当期に貸倒れた場合、前期に設定していた貸倒引当金 ¥240,000 ( $= ¥480,000 \times 50\%$ ) で補填し、補填できなかった残額は貸倒損失として処理します。
- (2) 前期計上完成工事高： $¥9,200,000 \times \frac{¥1,440,000}{¥8,000,000} = ¥1,656,000$   
 未成工事受入金残高： $¥3,000,000 - ¥1,656,000 = ¥1,344,000$   
 当期計上完成工事高： $(¥9,200,000 + ¥200,000) \times \frac{¥1,440,000 + ¥4,320,000}{¥8,000,000} - ¥1,656,000 = ¥5,112,000$
- (3) 消費税の会計処理方法は、勘定科目群より税抜き処理を採用していることが判明するので、仮払消費税勘定と仮受消費税勘定を相殺し、差額を未払消費税勘定に計上します。
- (4) 社債発行費償却： $¥300,000 \div 3 \text{ 年} = ¥100,000$
- (5) 補修工事代金のうち、資本的支出 ¥375,000 は固定資産の取得原価に算入し、収益的支出 ¥110,600 は修繕費として処理します。

## 〔第 2 問〕

- (1) 固定資産売却益  
 減価償却累計額： $(¥2,000,000 - ¥100,000) \times \frac{7 \text{ 年}}{10 \text{ 年}} = ¥1,330,000$   
 固定資産売却益： $¥700,000 - (¥2,000,000 - ¥1,330,000) = ¥30,000$
- (2) 甲材料費の消費高  
 期首材料棚卸高：¥458,000  
 当期材料純仕入高： $¥3,875,000 - ¥85,000 (\text{値引}) - ¥92,500 (\text{割戻}) = ¥3,697,500$   
 期末材料帳簿棚卸原価： $¥386,000 (\text{実地棚卸高}) + ¥92,000 (\text{棚卸減耗損}) = ¥478,000$   
 当期消費額： $¥458,000 + ¥3,697,500 - ¥478,000 = ¥3,677,500$
- (3) 資本金組入額  
 発行株式数： $2,000 \text{ 株} \times \frac{1}{4} = 500 \text{ 株}$   
 払込金額(資本金組入額)： $¥15,000 \times 500 \text{ 株} = ¥7,500,000$
- (4) 本店の支店勘定
- |          |       |   |        |       |   |        |
|----------|-------|---|--------|-------|---|--------|
| ① 備品の発送  | (借) 支 | 店 | 47,000 | (貸) 備 | 品 | 47,000 |
| ② 送金     | (借) 現 | 金 | 23,000 | (貸) 支 | 店 | 23,000 |
| ③ 交際費の立替 | (借) 支 | 店 | 12,000 | (貸) 現 | 金 | 12,000 |
- 本店の支店勘定： $¥56,000 + ¥47,000 - ¥23,000 + ¥12,000 = ¥92,000$

## 〔第 3 問〕

## 問 1

$$\text{人件費予定配賦率} = \frac{¥45,630,000 + ¥5,486,000 + ¥2,740,000}{15,300 \text{ 時間}} = ¥3,520 / \text{時間}$$

## 問 2

$$\text{No. 1701 工事への人件費予定配賦額} = ¥3,520 / \text{時間} \times 225 \text{ 時間} = ¥792,000$$

## 問 3

$$\text{配賦差異} = ¥3,520 / \text{時間} \times (225 \text{ 時間} + 1,050 \text{ 時間}) - ¥4,520,000 = \triangle ¥32,000 (\text{借方差異})$$

## 〔第 4 問〕

## 問 1

模範解答参照

## 問 2

## (1) 機械部門

機械部門費は、解答用紙の第 2 工事部への配賦金額が 34,650 円と記載されていることから、 $34,650 \text{ 円} \div 33\%$  で 105,000 円と判明する。

第 1 工事部配賦額： $105,000 \text{ 円} \times 45\% = 47,250 \text{ 円}$

第 3 工事部配賦額： $105,000 \text{ 円} \times 22\% = 23,100 \text{ 円}$

## (2) 車両部門

第 1 工事部配賦額： $32,000 \text{ 円} \times 50\% = 16,000 \text{ 円}$

第 2 工事部配賦額： $32,000 \text{ 円} \times 38\% = 12,160 \text{ 円}$

第 3 工事部配賦額： $32,000 \text{ 円} \times 12\% = 3,840 \text{ 円}$

## (3) 材料管理部門

解答用紙の第 2 工事部合計が 1,246,210 円と記載されているので、 $1,246,210 \text{ 円} - 1,185,000 \text{ 円}$  (部門費合計)  $- 34,650 \text{ 円}$  (機械部門費振替え)  $- 12,160 \text{ 円}$  (車両部門費振替え) で 14,400 円と判明するので、 $14,400 \text{ 円} \div 45,000 \text{ 円}$  で材料管理部の第 2 工事部サービス提供割合が 32%と判明する。

その結果、材料管理部の第 3 工事部サービス提供割合が  $28\% (= 100\% - 40\% - 32\%)$  であることが判明する。

第 1 工事部配賦額： $45,000 \text{ 円} \times 40\% = 18,000 \text{ 円}$

第 3 工事部配賦額： $45,000 \text{ 円} \times 28\% = 12,600 \text{ 円}$

## 〔第 5 問〕

## (1) 当座預金

①	(借) 通 信 費	2,000	(貸) 当 座 預 金	2,000
②	(借) 当 座 預 金	10,000	(貸) 未 成 工 事 受 入 金	10,000

## (2) 仮払金

①	(借) 販売費及び一般管理費	1,000	(貸) 仮 払 金	12,000
	(借) 前 払 費 用	11,000		

$$\text{前払保険料} : \text{¥}12,000 \times \frac{11 \text{ ヲ月}}{12 \text{ ヲ月}} = \text{¥}11,000$$

法人税等の中間納付額の処理は、(10) 参照

## (3) 貸倒引当金

(借) 貸 倒 引 当 金	4,700	(貸) 貸倒引当金戻入額	4,700
---------------	-------	--------------	-------

$$\text{繰入額} : (\text{¥}375,000 + \text{¥}745,000) \times 2\% - \text{¥}27,100 = \triangle \text{¥}4,700$$

## (4) 建設仮勘定

(借) 機 械 装 置	15,000	(貸) 建 設 仮 勘 定	15,000
-------------	--------	---------------	--------

## (5) 減価償却

## ① 工事現場用(機械装置)

(借) 未 成 工 事 支 出 金	200	(貸) 機械装置減価償却累計額	200
-------------------	-----	-----------------	-----

$$\text{¥}14,600 - \text{¥}1,200 \times 12 \text{ ヲ月} = \text{¥}200 \text{ (追加修正)}$$

## ② 本社用(備品)

(借) 販売費及び一般管理費 9,000 (貸) 備品減価償却累計額 9,000  
 $(¥64,000 - ¥28,000) \times 0.250 = ¥9,000$

## (6) 外注費

(借) 未成工事支出金 7,500 (貸) 工事未払金 7,500

## (7) 退職給付引当金

## ① 管理部門

(借) 販売費及び一般管理費 7,900 (貸) 退職給付引当金 7,900

## ② 施工部門

(借) 退職給付引当金 600 (貸) 未成工事支出金 600

$¥15,000 - ¥1,300 \times 12 \text{ ヲ月} = \triangle ¥600 \text{ (減算修正)}$

## (8) 完成工事補償引当金

(借) 完成工事補償引当金 500 (貸) 未成工事支出金 500

$¥2,900,000 \times 0.1\% - ¥3,400 = \triangle ¥500 \text{ (戻入)}$

## (9) 未成工事支出金

(借) 完成工事原価 2,000 (貸) 未成工事支出金 2,000

未成工事支出金			
T/B	952,000	(7)②	600
(5)①	200	(8)	500
(6)	7,500	(差額)	差額 ¥2,000 が完成工事原価です。
		次期繰越	956,600

## (10) 法人税等について

(借) 法人税、住民税及び事業税 104,800 (貸) 仮払金 93,000  
 (貸) 未払法人税等 11,800

収益＝完成工事高＋受取利息配当金＋貸倒引当金戻入額

費用＝完成工事原価＋販売費及び一般管理費＋支払利息＋通信費

上記の差額で税引前当期純利益を求め、それに 40% を乗じて法人税等を求めます。

当期の法人税、住民税及び事業税： $(¥2,907,800 - ¥2,645,800) \times 40\% = ¥104,800$

未払法人税等： $¥104,800 - ¥93,000 = ¥11,800$